

茶病虫害防除情報

令和8年1月15日

【第1号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

令和8年度地区茶栽培暦（防除暦）について

県内各地区において令和8年度の茶栽培暦策定検討会が行われました。本年の改定では今年の病虫害の発生や防除上の問題が比較的少なく、新規登録農薬や輸出茶の残留基準設定追加・変更も少なかったことなどから大きな改定はありませんでした。今回は、令和7年度の病虫害発生状況と県内全地区の改定された栽培暦の概要などについて解説します。

1 令和7年度の病虫害の発生状況

○ 炭疽病

二番茶期の発生は平年並み～やや少なく、三番茶期の発生は平年より多く、秋芽生育期の発生は平年並み～やや少なかった。

○ 輪斑病（新梢枯死症）

5月の発生は平年よりやや少なく6月はやや多かった。秋芽生育期の新梢枯死症の発生は平年並み～やや少なかった。

○ 網もち病

発生は平年よりやや少なかった。

○ チャノコカクモンハマキ チャハマキ

春先において両種とも発生が平年より多かったが、その後減少した。主に二番茶期に被害が多く見られ、その後発生は平年並み～やや少なくなった。

○ チャノホソガ

5月以降の発生は平年より多く推移した。現地茶園における三角葉巻被害も二番茶以降に平年より多く発生した。

○ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ

ヨコバイの発生は5月以降平年より多く推移した。一方、アザミウマの発生は8月にやや多かったが4月以降平年並み～やや少なかった。

○ クワシロカイガラムシ

本年の発生は平年よりやや少なかった。

○ カンザワハダニ

一番茶生育期の発生は平年並みであった。三番茶期以降、やや多かったが9月以降少なくなった。

○ マダラカサハラハムシ

本年の発生は平年より少なかった。

○ チャトゲコナジラミ

本年の発生は一番茶期から多かったが、その後減少した。

○ ツマグロアオカスミカメ

本年の発生は二番茶まで多かったが、その後、平年並みで推移した。

2 令和7年新規登録農薬、登録内容変更について

殺菌剤 テブロスポアブル 炭疽病 (1000 倍)

ニマイバー水和剤 もち病 (1000 倍)

殺虫剤 アプロートフロアブル クワシカイラムシの若齢幼虫 (1000 倍)

サムコルフロアブル 10 ハスモンヨトウ (2000～4000 倍)、削除：ハスモンヨトウ (4000 倍)

テッパン乳剤 ナガチャコガネ成虫 (1000 倍)

テロン、D・D、DC 油剤 ネコブセンチュウ

ハシレックス水和剤 ヨモギエタシヤクはシヤクトリムシ類に変更

ヨーハルフロアブル ナガチャコガネはナガチャコガネ成虫に変更

3 輸出相手国 (日本 USA EU 台湾等) の農薬残留基準値(MRL)の新規設定状況 (ppm)

殺菌剤 ヘルクト水和剤 EU 0.01 → 0.05

殺虫剤 グレーシア乳剤 台湾 不検出 → 5

マイコトネロアブル EU 0.1 → 0.05

除虫菊乳剤 3 USA 不検出 → 1

令和8年度米国輸出茶対応栽培暦（南薩 日置 始良伊佐 北薩 肝属 熊毛地区）

月 旬	茶芽生育過程 (発生時期)	病害虫名	基幹防除	補完防除
			薬剤 希釈倍数（倍）	薬剤 希釈倍数（倍）
2月 上 中下	初発生確認時 越冬期	(赤焼病発生確認直後) (クワシロカイガラムシ)		カスミンホルトール（南） フルート MC
3月 上 下	越冬後 一番茶前	ハダニ サビダニ カメムシ アブラムシ (ハダニ多発時) (コカクモンハマキ チャハマキ)	ダニゲッターフロアブル（南日始北肝） コルト顆粒水和剤（南）	ダニゲッターフロアブル（熊） コルト顆粒水和剤（熊肝） ダニサハラフロアブル（南日肝） ハマキコン N（日北）
4月				
5月 上 中 下	幼虫ふ化最盛期 若齢幼虫期 (若齢幼虫期) 二番茶萌芽ー1葉期	クワシロカイガラムシ (チャトケコナジラミ) (コカクモンハマキ チャハマキ) ウンカ スリップス ホソガ (炭疽病)	アブ ロート エース F（南日） ウララ DF ＋ ディアナ SC（南北肝） or ファルコンフロアブル（日熊）	アブ ロート エース F（南日肝熊） アブ ロート エース F（日熊） ハマキコン N（南熊） クワ ロシールト（南始北肝） or ムッシュホルトール（日熊）
6月 下	三番茶萌芽ー1葉期	(輪斑病) ウンカ スリップス ホソガ (炭疽病)	アグリメック（南日肝） or エクシレル SE（熊） or テッパ ン液剤（始北）	アミスター 20フロアブル（北） クワ ロシールト（南北） or ムッシュホルトール（日熊）
7月 下	最終摘採直後	(輪斑病) ハダニ類	カスミンホルトール（北）	カスミンホルトール（南日肝熊） ダニサハラフロアブル（日北）
8月上中 下	秋芽萌芽ー1葉期 秋芽3ー4葉期	炭疽病 新梢枯死症 ウンカ スリップス ハマキ類 ホソガ マダラ チャトケ 炭疽病 網もち病 ウンカ スリップス ハダニ チャトケ マダラ	フロンサイト SC ＋ グレース乳剤（南日北肝熊） コテツフロアブル（始） インターフロアブル ＋ コテツフロアブル（南日北肝熊） or アグ メック（始）	
9月 上 中	3-4葉期7日後 若齢幼虫発生期	(網もち病) ハマキムシ類 ホソガ シャクトリ スリップス	アファーム乳剤（南） or ディアナ SC（日）	ムッシュホルトール（南始肝） or クワ ロシールト（日北） ファルコンフロアブル（北） or ディアナ SC（始熊） or アファーム乳剤（肝）
10-11月	秋整枝後	(チャトケコナジラミ)		アブ ロート エース F

令和8年度一般園茶栽培暦（始良・曾於 地区）

月 旬	茶生育過程 (発生時期)	病虫害名	基幹防除	補完防除
			薬剤 希釈倍数 (倍)	薬剤 希釈倍数 (倍)
1 月				
2 月				
3 月上中 下	越冬後 萌芽前	ハダニ のみ ハダニ・サビダニ混発園 (ハマキムシ類)	ハダニロックフロアブル (始曾) ダニゲッターフロアブル (始曾)	ハマキコン N (始)
4 月 上	萌芽～1 葉期	(ハダニ多発時)		ダニサラハダニフロアブル (始)
5 月 上 上中 下	第1世代若齢幼虫期 第1世代成化最盛期 第1世代成虫発生期 二番茶萌芽～1 葉期	チャトゲコナシラミ クワシロカイガラムシ 炭疽病 もち病 黒葉腐病 ウンカ スリップス ホリガ	アプロートエース F (始) アプロートエース F (始) ダニコニール 1000 (始) ダニコニール 1000 (始) ウララ DF (始曾) ディアナ SC (曾)	アプロートエース F (曾) ダニコニール 1000 (曾) ダニコニール 1000 (曾) フカンコルフロアブル (始)
6 月	二番茶摘採後			
7 月 上	三番茶萌芽～1 葉期	ウンカ スリップス ホリガ ハマキ 炭疽病	テッパン液剤 (始) エクシレル SE (曾)	
8 月 上 中 下	最終摘採・整枝後 (直後～3 日後) 秋芽萌芽～1 葉期	輪斑病 ウンカ スリップス チャトゲ ハダニ 炭疽病 網もち病 もち病 新梢枯死症	カスミホルトール(始) コテツフロアブル (始曾) ダニコニール 1000 (始曾)	
9 月 上 中	秋芽 3～4 葉期 秋芽 4～5 葉期	炭疽病 網もち病 もち病 新梢枯死症 ウンカ スリップス チャトゲ (網もち病常発園) (ハマキ ホリガ シヤクトリ)	インターフロアブル (始曾) アグリメック (始曾)	ムッシュホルトール (始) フシトールフロアブル (曾) ディアナ SC (始) ファルコンフロアブル (曾)
10-11 月	秋整枝後			

注 1 南…南薩 日…日置 北…北薩 始…始良 曾…曾於 肝…肝属 熊…熊毛 なし…全地区